

世界標準となったドライパート汚れ防止技術の 開発者・関谷邦夫氏を偲ぶ

(株)メンテック（代表取締役社長：関谷宏氏）の創業者・関谷邦夫氏が、昨年10月2日に満91歳で逝去した。

邦夫氏は1930年9月7日、中国・満州で生まれ、帰国後は長野の農産物を東京で売って家計を助けていたが、ある縁から金属メーカー社長の書生となり、日比谷高校の夜学に通う傍らデザイン専門学校に通った。しかし諸事情から大学進学は断念して就職し、当時の売れ筋であった使い捨て髭剃り刃のマーケティング担当として従事。銭湯や温泉旅館に髭剃り刃の自販機を置くという先進的なアイデアと実行力で売上げを伸ばすなど、事業家としての片鱗をすでに示していた。

そして1967（昭和42）年、37歳のときに米国製金属潤滑油モラブの輸入商社として「モラブ静岡(株)」を設立し社長に就任。従来品の数倍の効果を発揮するモラブオイルは多くの顧客を獲得したが、邦夫氏はそれだけでは飽き足らず、77年に潤滑油の自動給油装置を自前で開発し、現場の省力化に大きく貢献した。

同社は84年に社名を「(株)メンテック」に改称したが、現在も使用している社名ロゴは金属潤滑のモデル図をモチーフとし、上下の赤色の帯が金属表面の油剤、社名部分は固体潤滑剤を表しているという。製紙産業への参入もこの給油装置がベースになっており、製紙メーカーからの依頼でヤンキードライヤーに応用。表面に潤滑油を塗布して紙粉防止や表面の

傷を修復できるDSL（Dryer Surface Lubricant）を開発し販売を始めたところ、日本全国の製紙工場から引合いが殺到するに至った。

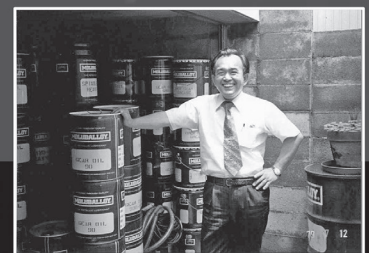
DSLのヒットを受けて邦夫氏は89年、摺動タイプのスプレー装置“ミストランナー”と汚れ防止剤“ダスクリーン”を組み合わせた多筒ドライヤー向けの汚れ防止技術を本州製紙（現王子ホールディングス）と共同で開発。続いて91年には十條板紙（現日本製紙）との共同によりキャンバス全幅に薬品を散布する“キャンバススプレーズ”と汚れ防止剤“クリーンキーパー”の実用化を果たし、製紙産業向けサプライヤーとしてのポジションを盤石なものとした。なお、93年に「抄紙機ドライパート汚れ防止技術」が静岡県知事褒章を受賞し、「抄紙機ドライヤーの表面汚れ防止方法とそれに用いる薬液散布装置と表面汚れ防止剤」は95年の佐々木賞（紙パルプ技術協会）に輝いた。これらドライパートの汚れ防止技術はDSP（Dryer Section Passivation）として世界12ヶ国130工場で約800台（2021年末現在）が稼働している。

以降も邦夫氏は「お客様の現場の課題をお客様と共に解決する」技術開発・サービスの提供にこだわり続け、その理念は現社長・関谷宏氏にも継承されている。近年ではDSPとキャンバス洗浄装置を融合した“FabriKeeper®”や薬品使用量の管理や自動発注を行う“SmartChemical®”，抄紙機の汚れレベルを見える化する“SmartDepo®”，さらにはIoT、AIなど先進技術を活用しつつ前記DSPを融合した製紙プロセス最適化システム“SmartPapyrus®”として具現化され、このうち“FabriKeeper®”は2020年に2度目となる佐々木賞受賞の栄冠を勝ち取った。また“SmartPapyrus®”については2019年以降、各地の製紙工場でのフィールドテストなどを経て進化を続けており、22年には欠点検出器の微細な欠点画像（10mm未満）を分類してその発生箇所を推定することで、トラブル発生前の対策を可能にした1.0のリリースが予定されている。

邦夫氏の子息で現社長の宏氏は、邦夫氏の逝去に際して「父はゼロから1を生み出し」「自分は1を10にした」、すなわち先代が開発した装置・技術を幅広く展開することで製紙業界の発展、ひいては自社の企業価値向上に努めてきたとしたりうえて、今後は現在注力している“SmartPapyrus®”の更なる進化を通じて現場の“働き方改革”に寄与し、製紙業界に恩返ししていくとの決意を述べた。

メンテック創業者
関谷 邦夫

その人生について振り返る



Maintech

メンテックのロゴマーク



昨年10月7日に全社員を集めて行われた懇話会では、ターニングポイントとなった技術を軸に邦夫氏の功績を7分程度にまとめたビデオで故人を振り返った、氏の開発への並々ならぬ情熱と愚直なまでの顧客志向が窺える内容になっており、以下のメッセージで締めくくられている。

「DSLやDSPの開発当時は、10人足らずの会社で、現場のトラブル対応に追われ、毎日、朝から晩まで大変な日々が続きました。

その後、ここにいる皆さんを含め若い力がメンテックに集い、技術の革新も進んで2度目の佐々木賞受賞、さらにはメンテックの技術がアジアを越えて世界に広がっている事を嬉しく思います。これも皆様の日々たゆまぬ努力のお陰です。今日、大きく発展し成長を続けるメンテックを見ながら、幸せな気持ちで、人生最後の日を迎えることができました。みんな、本当にありがとう！」

【メンテックの沿革】

1967年：静岡県沼津市にモラブ静岡(株)を

設立、米国製金属潤滑油モラブの販売代理店として発足。

77年：抄紙機ドライヤー軸受専用給油装置を開発、製紙工場に販売。

83年：モービル石油代理店取得。高温用合成油の抄紙機ドライヤー軸受適用法を開発。

84年：モラブ静岡(株)を(株)メンテックに社名変更し、メーカーへ転換。

85年：抄紙機ドライヤー表面潤滑法DSLを発明、特許出願。

89年：抄紙機ドライヤー紙粉防止法(DSP)を本州製紙(現王子ホールディングス)と共同開発。ミストラランナーの初号機、画期的な製品となり、以降改良を重ねて海外にも進出した。

91年：抄紙機カンバス汚れ防止法を十條板紙(現日本製紙)と共同開発、共同出願。

93年：静岡県より「抄紙機ドライパート汚れ防止技術」について知事褒章受賞。

94年：片艶紙の製造法を新王子製紙(現王子ホールディングス)と共

同開発、共同出願。海外展開を開始、台湾でDSPが採用。

95年：DSPが紙パルプ技術協会より国産の新技术開発として佐々木賞を受賞。

97年：インドネシアでDSPが採用。

99年：ドライパート汚れ防止技術を米国Hercules社にライセンス供与。欧州・米国において最初の拡販を試みた。

2000年：プレスパート汚れ防止技術を開発、特許出願。

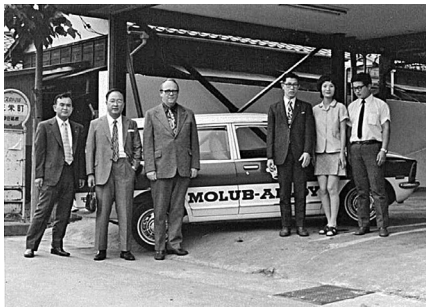
01年：ティッシュ抄造機械向けクレーピング技術を開発、特許出願。

04年：プレスロール剥離剤を日本製紙と共同開発、共同出願。中国でDSPが採用。

07年：創業40周年。静岡県富士市に技術開発センターを開設。ファブレスメーカーのため研究開発と検査に特化。クリエイティブな環境でR&Dを推進。

10年：中国上海に現地法人「明答克商貿(上海)有限公司」を設立。

11年：マレーシアでDSPが採用。



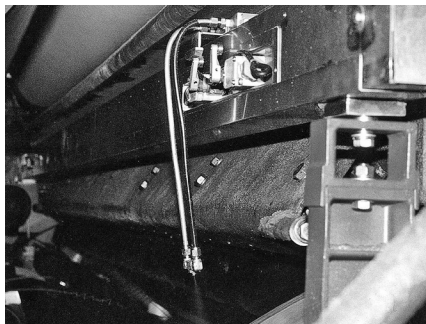
メンテックの前身であるモラブ静岡を設立(1967年)



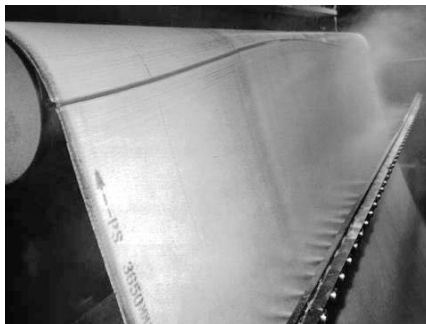
自動給油機を開発(1977年)



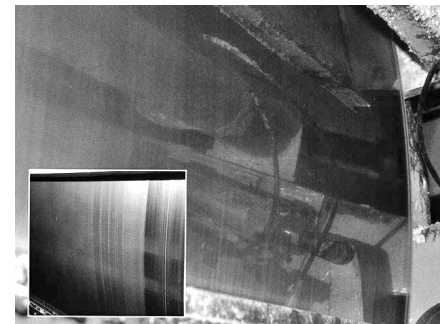
自動給油機の技術をベースとしたDSL(1983年)



ミストラランナーとダスクリーンとの組合せ(DSP)を考案(1989年)



DSP(カンバスブレース)の開発(1991年)



現在の家庭紙クレーピング技術のベースとなったYD表面修正法(1994年)

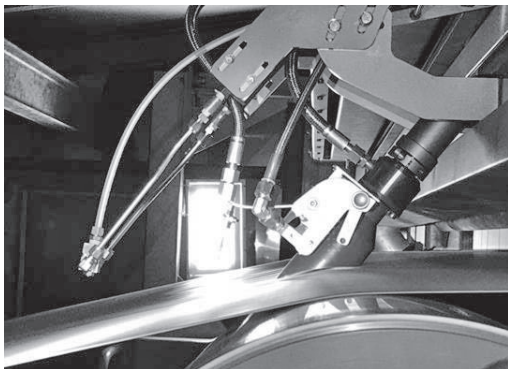
- 12年：タイ、ベトナムでDSPが採用.
- 13年：ISO9001 認証取得.
- 14年：フィリピン、豪州でDSPが採用.
- 17年：創業50周年.
- 18年：製紙プロセス最適化システム
“SmartPapyrus®”プロジェクト
が発足. “FabriKeeper®”国内初
号機を含む2台を受注.
- 20年：欧州でのDSP採用が広がり
ドイツ・デュッセルドルフに
欧州初の拠点である現地法人
「Maintech Europe GmbH」設
立. “FabriKeeper®”が紙パルプ
技術協会の第48回佐々木賞を
受賞.
- 21年：“SmartPapyrus® ver.1” (IoTに
よる「キャンバス見える化」) をリ
リース.
- 22年：“SmartPapyrus® 1.0” (AIによる
「欠点分類機能」) リリース予定.
- 23年：“SmartPapyrus® 2.0” (AIによる
「欠点予兆機能」) リリース予定.



DSL・DSPが評価され佐々木賞を受賞（前列右端が邦夫氏）
(1995年)



創立50周年 (2017年)



キャンバス汚れ防止・洗浄装置 FabriKeeper®
(2018年)



FabriKeeper®の開発により2度目の佐々木賞を受賞（右
は現社長・宏氏）(2020年)

今日、大きく発展し成長を続ける
メンテックを見ながら、
幸せな気持ちで、人生最後の日を
迎えることができました。

みんな、本当にありがとう！
2021年10月2日

岡谷邦夫

